

## メノコツチハンミョウ

2018年10月14日、澄川森林の「親子森林教室」の朝、集まり始めた一組の親子が「虫がいる」と足元を指さしてくれました。どれどれ、と近づきまして、どこどこ、と指さす先に濃紺色の金属光沢の虫が目につきました。図鑑「札幌の昆虫」に掲載されているのは承知していましたが、名前は記憶していませんので、その場で即答できませんでした。これまでに出会ったことはありませんが、ちょっとグロテスクな姿なので、採集したことはありません。ノソノソとしていて、動きが遅いのです。10月も半ばで朝晩の気温が低くなっているので、動きがぶいのも無理なしと思いましたが、掴んでみますと、ブヨブヨで軟らかいのです。手のひらの乗せる時にミカンの汁のような体液を漏らすのです。変な臭いがしました。お母さんがスマホを持っていて、すぐに撮影を始めました。帰ってから調べる。とのこと。採集者として娘さんじんのうちゅうこの陣内結子さんとして記録されます。こちらは標本にして残すことを約束しておきました。

帰宅後に図鑑のページをめくりまして、メノコツチハンミョウの♀と同定しました。左図の左が♂右が♀です。♂の触角に特徴がありますので、識別できます。ムラサキオオツチハンミョウというのも掲載されていますが、

こいつは春に出現するとのことで、秋に出現するのはメノコなので、同定を誤ることはありません。ミカン色の体液はカンタリジンといいまして、かなり毒性があり危険な物質で、天敵の鳥などが嫌う物質のようです。手のひらの皮膚が厚いこともあって、被害は受けませんでした。薄い皮膚に付着したならば、厄介なことになったものと思われました。子供たちのために用意されている手洗い水のお世話になったことで、無事でした。



大きさは 8~21 ミリ。  
分布は北海道と本州では中部以北とのこと。

生態的にはハナバチの巣に寄生して、卵→幼虫→偽蛹→幼虫→蛹→成虫のように変態する変な虫のようです。成虫は植物の葉を食べる写真がありましたので、植物性食です。(記 高野)

